

## 福島第一原子力発電所の状況

平成 24 年 10 月 19 日  
東京電力株式会社

## &lt; 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 &gt; (10/19 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力*	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 1.9 m <sup>3</sup> /h	32.7	106.1 kPa abs	A系： 0.00 vol%
		給水系：約 2.8 m <sup>3</sup> /h			B系： 0.00 vol%
2号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 4.5 m <sup>3</sup> /h	45.1	3.87 kPa g	A系： 0.07 vol%
		給水系：約 1.9 m <sup>3</sup> /h			B系： 0.08 vol%
3号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 4.5 m <sup>3</sup> /h	45.4	0.22 kPa g	A系： 0.21 vol%
		給水系：約 1.9 m <sup>3</sup> /h			B系： 0.20 vol%

\*絶対圧(kPa abs) = ゲージ圧(kPa g) + 大気圧(標準大気圧 101.3 kPa)

## &lt; 2. 使用済燃料プールの状況 &gt; (10/19 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	22.5
2号機	循環冷却システム	停止中	35.6
3号機	循環冷却システム	運転中	21.2
4号機	循環冷却システム	運転中	30

\*各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルへヒドラジンの注入を適宜実施。

【2号機】・10/15 6:07 使用済燃料プール代替冷却系において、弁追設および逆止弁点検、ドレン配管の設置作業を行うため、使用済燃料プールの冷却を停止。10/19 冷却再開予定。

## &lt; 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 &gt;

号機	排出元 →	移送先	移送状況
2号機	2号機 タービン建屋	→ 3号機タービン建屋	10/16 10:14 ~ 移送実施中
3号機	3号機 タービン建屋	→ 集中廃棄物処理施設 [ 雑固体廃棄物減容 処理建屋 (高温焼却炉建屋) ]	10/15 18:05 ~ 移送実施中
4号機	4号機 タービン建屋	→ 集中廃棄物処理施設 [ 雑固体廃棄物減容 処理建屋 (高温焼却炉建屋) ]	10/15 11:55 ~ 移送実施中

#### <4. 水処理設備および貯蔵設備の状況> (10/19 7:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	除染装置	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)
運転状況	停止中	運転中*	停止中	水バランスをみて 断続運転	水バランスをみて 断続運転

\*フィルタの洗浄を適宜実施。

- ・H23/6/8～ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。
- ・H24/10/18 15:53※、第二セシウム吸着装置のろ過フィルタ空気作動弁の閉止により同装置が停止。その後、同装置について現場確認した結果、異常がなかったことから、同日 17:18 同装置を起動し、17:21 定常流量に到達。本事象は、当社運転管理員が定時のデータ採取のために操作盤を操作しようとした際、誤って当該弁を閉にする操作を行ってしまったことにより、当該弁が閉止し、ブースターポンプが装置保護のためのインターロックにより停止(同装置が停止)したもの。再発防止対策として、誤操作防止用保護カバーを閉じた状態でデータ採取を行うよう、当社運転管理員への再教育を実施する。

※ 16:00 頃と記載しておりましたが、正しくは 15:53 となります。

#### <5. その他>

- ・H23/10/7～ 伐採木の自然発火防止や粉塵飛散防止のため、5, 6号機滞留水の浄化水を利用し、散水を適宜実施中。
  - ・H24/2/23～ 6号機サブドレン水について、一時保管タンクを経由した、仮設タンクへの汲み上げ試験を実施中。
  - ・H24/3/6 ～ 5号機サブドレン水について、一時保管タンクを経由した、仮設タンクへの汲み上げ試験を実施中。
  - ・H24/4/25～ 地下水による海洋汚染拡大防止を目的として、遮水壁の本格施工に着手。
  - ・H24/10/19 10:59 頃、福島第一原子力発電所1・2号機超高压開閉所\*周辺(屋外)において、雑草より発火していることを、パトロール中の当社社員が発見。同日 11:02 に消防署に連絡。当社社員が初期消火を行い、同日 11:12、消火を確認。同日 12:07、消防署の現場確認により鎮火を確認。警察署の現場確認により火災で燃えた範囲は約 20m×約 34mと判断された。火災の原因について、今後調査予定。なお、本事象によるけが人の発生はない。また、モニタリングポストの値に有意な変動はなく、プラントへの影響も確認されていない。
- \* 1・2号機超高压開閉所  
1・2号機で発電した電気を送電系統に送るための設備。現在は使用していない。

以上